

第56回運営推進会議

看護小規模多機能型居宅介護事業所
るびなす

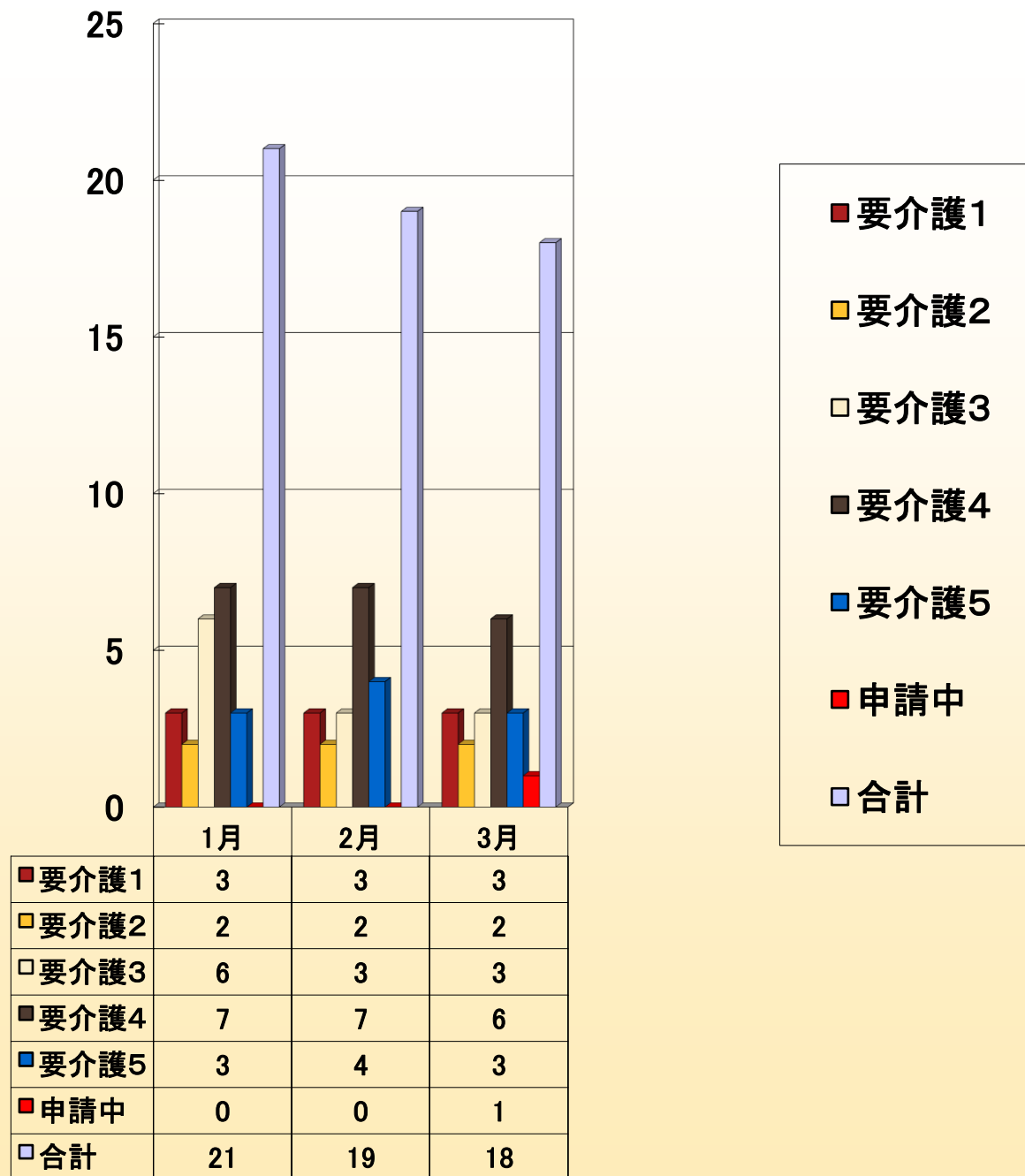
令和5年3月22日

第56回運営推進会議

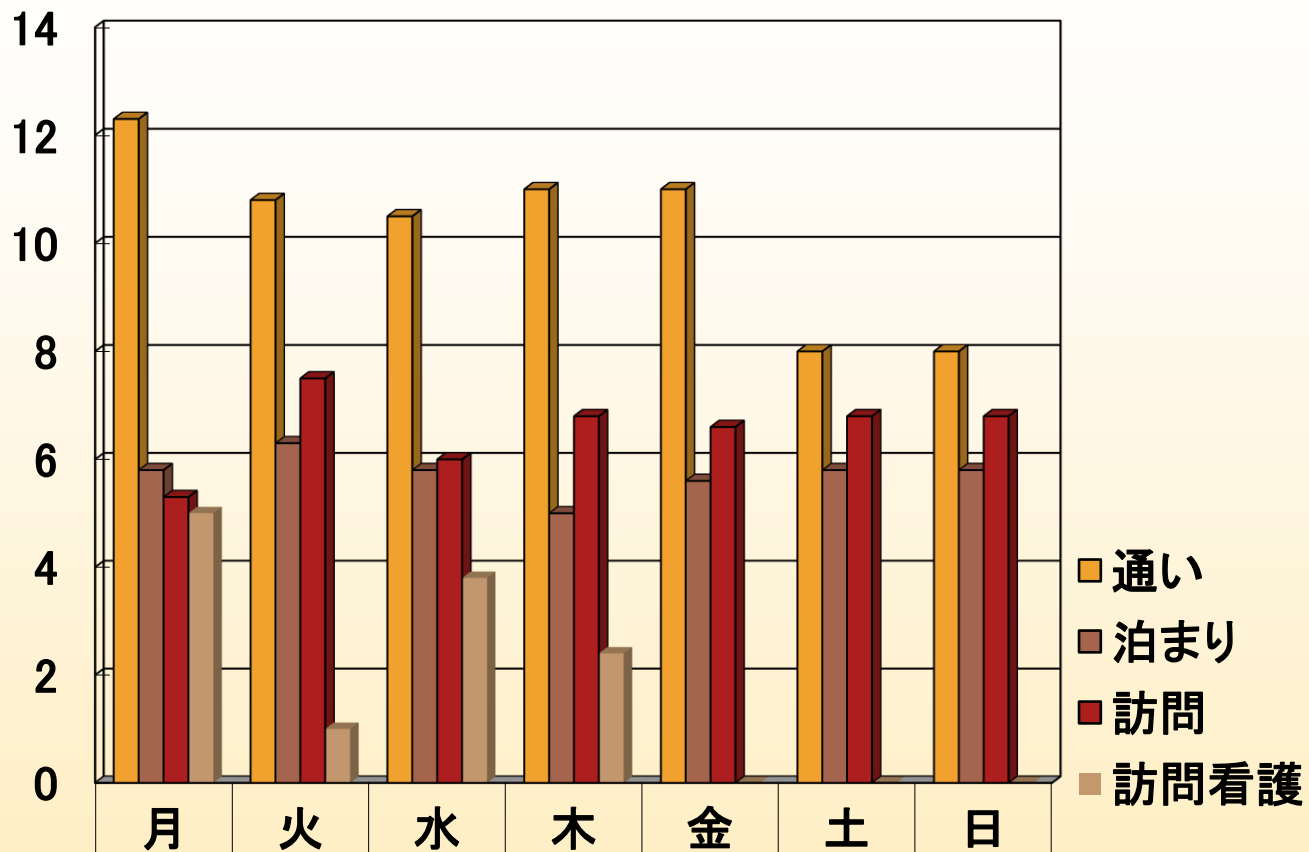
- るぴなすご利用者現況報告
- 新規ご利用者の紹介
- 看取りの報告
- コロナウイルス感染について
- 活動報告
- サービス評価

登録利用者数 令和5年1月～令和5年3月

3月
平均介護度 3.2



令和5年3月 曜日別延べ利用者数



通い	12.3	10.8	10.5	11	11	8	8
泊まり	5.8	6.3	5.8	5	5.6	5.8	5.8
訪問	5.3	7.5	6	6.8	6.6	6.8	6.8
訪問看護	5	1	3.8	2.4	0	0	0

新規ご利用者の紹介

S・K様 女性 97歳 要介護3→4→変更申請中 お孫様と2人暮らし
心不全・腎不全

R4.7.14利用開始

心不全・腎不全にて入退院、その後老人保健施設に入所していたが、状態落ち着き、ご本人もご家族も自宅での生活を望まれ退所。看護小規模多機能を利用しながら自宅で生活することとなった。

週3～4回の通い、月5～6回泊まりを利用していた。冬になり体に負担が少ないよう泊まりを増やしていたが、R5.1.1コロナ陽性となり、その後心不全悪化。呼吸苦強く、移動困難となり連泊利用。帰宅中は訪問サービスで体調管理、排泄支援を行った。週1回訪問看護利用している。

新規ご利用者の紹介

S・K様 女性 90歳 要介護1 一人暮らし 第12胸椎圧迫骨折

R4.9.15利用開始

転倒による圧迫骨折により入院、リハビリし歩行可能となり退院。
訪問にて、毎日昼・夕食のお届け、その際変わりないか様子伺っている。
通いにて週3回入浴、週1回訪問看護を利用している。利用開始してから、
尿路感染症により発熱あり、2度入院されている。

看取りの報告

M・K様 女性 88歳 要介護3 長女様と2人暮らし パーキンソン病 H30.2.25～R5.1.3ご利用

長女様のご都合に合わせて送迎時間や泊まる日を変更しながら、毎日通い、週2回程泊まり、週1回訪問看護を利用されていた。

R4.12.26コロナ陽性となり、連泊利用で療養される。熱が出た際は解熱剤を服用し落ち着いていた。食事は介助にて召し上がっていたが、食事量にムラがあった。前日夕食も召し上がり落ち着いていたが、R5.1.3訪室すると呼吸停止しており、9:54死亡確認される。

看取りの報告

N・A様 女性 88歳 要介護4→5 長男様とお孫様の3人暮らし
レビー小体型認知症 糖尿病

H31.4.23～R5.2.9ご利用 (その間R4.11.7～12.15入院)

認知症が進行しており、息子様自宅での対応に苦勞されていたが、徐々に泊まり利用を増やし負担軽減を図りながら夜は1日おきに帰宅されていた。糖尿病性昏睡によりR4.11.7入院。入院中意識レベル回復せず飲食できない状態で看取りの方向となる。12.15退院、ご家族ご希望により連泊利用される。退院後るぴなすでは、水分、ムース食を摂取できるようになり、行っていた点滴を終了する。リクライニング車椅子に乗車しリビングに起きて来られ皆さんと一緒に過ごす事ができた。R5.2.6目を閉じたままになり飲食できなくなる。繰り返し嘔吐あり。2.9呼吸停止し19:34死亡確認される。

コロナウイルス感染症

令和4年12月26日発生

陽性者確認	ご利用者	職員	累計
12/26	4名	2名	6名
12/27		2名	8名
12/28	1名	1名	10名
12/29	4名	1名	15名
12/30	1名		16名
12/31	1名		17名
1/1	2名	3名	22名
合計	13名	9名	22名

コロナウイルス感染症

自宅療養 5名(内2名入院 入院後1名死亡)

るぴなす療養 8名(内1名るぴなすで看取り 内1名入院後日死亡)

～主な症状～

● 発熱 ● 咳

➡ 発熱に対して、解熱剤、水分補給

➡ 重傷者1名 解熱剤、水分補給 ➡ 坐薬 ➡ 皮下輸液 ➡ 救急搬送

感染拡大時の入院療養の原則について

【大原則】感染拡大時には、入院による医療介入（積極的治療）が必要な人※に、限られた新型コロナウイルス入院ベッドを振り分ける。⇒ 施設内の感染拡大予防・隔離目的などでの病床使用（入院調整）は行わない。

※ 医療介入（積極的治療）が必要な人 → 酸素投与、人工呼吸器管理が必須な人 など

施設内療養の対象施設について

【対象施設】＝ 高齢者等が入所・居住する施設

特別養護老人ホーム、介護老人保健施設、介護医療院、介護療養型医療施設、認知症GH、養護老人ホーム、軽費老人ホーム、有料老人ホーム、サービス付き高齢者向け住宅、(介護予防)短期入所生活介護、(介護予防)短期入所療養介護、(介護予防)小規模多機能居宅介護、看護小規模多機能型居宅介護

コロナウイルス感染症

- ◆ゾーニング
- ◆入浴中止
- ◆訪問サービス 職員固定
- ◆消毒
- ◆グローブ・エプロン・ガウン
- ◆マスク・フェイスシールド
- ◆衣類、食器分別、消毒洗浄、使い捨て容器使用

コロナウイルス感染症

※ADL低下による個別全介助

※職員陽性者多数 → 職員不足

※感染力の強さ

※感染予防、ゾーニングの難しさ

※重傷者 入院困難

サービス評価

看護小規模多機能型居宅介護事業所は、運営推進会議をおおむね2月に1回以上開催することと規定されているがサービスの改善および質の向上を目的として、自ら提供するサービスについて評価・点検（自己評価）を行うとともに、自己評価結果について、運営推進会議等において第三者の観点からサービスの評価（外部評価）を1年に1回以上行う。

サービスの質の評価の客観性を高め、サービスに質の改善を図ることを目的とし、結果の公表を行うことが義務付けられており、利用者に対するサービスの提供にあたり、職員に対し、十分意識付けを図ることが求められている。

サービス評価

スタッフ個別評価



事業所自己評価



外部評価



評価の公表

- これまでの取り組みやかかわりを自らに向き合い、振り返ります。個人作業（11月中旬まで）

- 各自が取り組んだ「スタッフ個別評価」を持ち寄り、全体で話し合い、それぞれの考えや実践、項目に関する捉え方の違いなどを話し合い、その中から改善の方策を考えます。事業所のコミュニケーションの場ともなります。（12月上旬～下旬）

- 運営推進会議で話し合います。（2月～3月）
「できている」「できていない」という結果のみで判断するだけでなく、事業所が真摯に自らの取り組みを振り返り、質の向上を図っているか確認します。
地域が日頃感じていることと事業者自身が考えることとの違いについて話しあい、事業所の課題や今後の方向を見出します。（3月）

第56回運営推進会議

看護小規模多機能居宅介護事業所るぴなす

開催日時：令和4年3月22日(水) 18:00～

出席者：高志2丁目自治会役員長・目黒様，民生委員・大嶋様

地域包括支援センター山潟・小石様

看護小規模多機能ご利用者ご家族・五十嵐様，デイサービスご利用者ご家族・猪浦様

法人代表・斎藤先生，法人総務・物江，通所介護管理者・遠藤，看護小規模管理者・中村

1、ご利用者現況報告

○登録利用者数

○曜日別利用者数

・訪問数は、人数を示している。お一人に一日数回の訪問もあるので回数はもっと多い。地域で自宅で暮らせるよう訪問し支援している。

2 新規ご利用者の紹介

- ・心不全末期特有の波があり、厳しい時を乗り越えながら療養されているご利用者様。苦痛緩和の為、貼るタイプのモルヒネを使用、在宅酸素も使用しており、訪問診療と訪問看護も状態に合わせ、こまめに訪問している。
- ・尿管の管理や水分補給が上手くいかず発熱し入院を繰り返しているご利用者様。退院し、清潔を保つようなるべく入浴して頂くようにし、訪問看護も入り日々ケアしている。自宅で過ごしたい方で、通いで入浴のみ行い帰宅されている。入院しても自宅を希望し戻って来られている。

2 看取りの報告

- ・看多機のシステムをうまく使い、二人暮らしの娘様の都合に合わせて利用し生活されていた。朝迎えに行く日、午後迎えに行く日、夕方帰る日、泊まる日、ご家族は夕食介助に来て下さったり、色々な関わり方、使い方をされていた。

- ・最初はるぴなすのデイサービスを利用されており、長い時間の利用や泊まりが必要になり看多機へ移行された。入院後ほぼ眠っており飲食できず点滴していたが、回復見られずの方向となり、るぴなすを希望され退院。ここへ着くと目を開け反応あり、口を動かし舌を動かしたので、スポンジで水分を飲む事ができた。ムース食も食べる事ができていた。長男様も会いに来ることができ良かったと思う。

4、活動報告

○行事、日頃の様子をパワーポイントで写真を見て頂きながら報告

- ・ 9月・・・お祭り気分で、景品釣りゲーム
- ・ 10月・・・地域の方が作って下さった畑でさつま芋の収穫。ご利用者様も準備して参加され活躍された。甘い良い芋が収穫でき、皆で味わえた。10月の行事でも、お芋の食べ比べをした。干し柿を作り、味わった。風通しが良く、良くできた。
- ・ 11月・・・天気が良い時に公園へ出掛けたりドライブをして、自然の中紅葉を楽しんだ。プランターにチューリップの球根を植えた。

- 1 2月・・・クリスマス、サンタクロースよりプレゼント。
- 3月・・・おやつバイキング。苺でデコレーション。
- 消防避難訓練・・・自治会の方よりご協力頂いた。外へ避難すると、手を差し延べ見守って下さった。水消火器を使用した消火訓練も行った。
- 夜間想定避難訓練・・・夜間は職員一名。出火場所から避難経路を決め、今回は和室を通り玄関まで避難した。

2 コロナウィルス感染症

- 感染の状況報告
- 感染拡大時の入院療養の原則について
ご家族が入院を希望されても受け入れる病院がなく、探したが入院は難しかった。最後は救急車要請し救急隊から探してもらったが3時間かかった。
- 施設内療養の対象施設について
入所施設ではないが、自宅での療養が難しい場合はここで療養となる。
- 5類になっても施設療養は変わらない。予め感染前からACPをしておくようにとの事だが、難しいと思う。感染対策と対応を引き続き行っていく。

2 サービス評価

- 今年度の改善計画の取り組み，頂いたご意見，来年度の改善計画。
- 職員の話し合いでは、思いや希望を汲み取り叶えたい，できるだけ外へ出る機会を持ちたい、という意見が多かった。
- 望む生活へ向けたものであり、災害対策も大切なので自治会の協力を得て行っていききたい。
- いただいた意見をまとめ、ホームページへ掲載し、包括支援センターへお届けする。

2 その他ご意見等

- 二人暮らしの両親がお世話になっており、子の自分は住宅環境により一緒に住むことはできないのでありがたい。
- デイ利用者の泊まりについて質問 →泊まり利用できるのは看護小規模に登録されているご利用者。緊急時で他の施設がどこも無理な場合、看護小規模の泊まりが空いていれば2週間を限度とし短期利用が可能。担当のケアマネージャーを通して相談して下さい。

どうぞ今後ともご支援ご協力をお願いします。

ケアステーションるぴなす スタッフ一同

